

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「親の役割とは？」



家で宿題をしているとき、母親から手の甲にペンで『ばか』と書かれたAさん、父親から頭をたたかれたHさん。きっと「どうしてできないの!」「何もできないダメな子!」などと人格を否定されるような言葉も掛けられたはず。Aさんの文字を担当の先生が消そうとしてもなかなか消えなかったそうです。いつも笑顔いっぱいのHさんの表情は一日暗かったそうです。期待通りの結果が出ないと厳しく叱る親に聞くと、「子どもが将来困らないためです」と答えます。『ばか』という文字や頭の痛さは消えますが、子どもの心に一生消えない深い傷が残る、「どうせ自分は何もできないダメな子どもなんだ」と自信を失うと同時に、他人を信じられなくなります。

「子どものために何とかしたい」と考え、親の期待を子どもに押し付けると、愛情ではなく支配になります。発達のアンバランスが認められる子どもは、みんなと同じ学び方でうまくいかないことがあるため、多様な学び方や学びの場が必要です。また、子どもは親の怒っている姿や大きな声を出している姿を見ると不安になり、セルフタッチ、吃音、チック、緘黙等の行動で自分を守ろうとします。

子育てには2つの喜びがあります。1つは子どもに期待をする喜び、もう1つは子どもを幸せにする喜びです。できることなら、子どもを親の思った通りに育てるのではなく、子どもの希望にニコニコ笑顔で応えられることに喜びを感じる親になってほしいと思います。親の役割とは、子どもにとって安心できる存在、心の居場所になることです。子どもは親の笑顔が大好きです。子どもは笑顔の数だけ幸せになれる。もし園や学校で不安そうな表情をしている子どもがいたら、ただ笑顔で心をギュッと抱きしめてあげてください。



### とれたて直送便



## 「聴覚障害児への配慮」～コミュニケーションのポイント～

- ①なるべく静かな環境で会話をする。(静けさは最大の教育支援!)
- ②話す前に、名前を呼んだり、「大事な話をするよ」と前振りをしたりして、話し手に注意を向ける。
- ③口元や表情が見えるようにする。(板書しながら話すことはNG)
- ④正面からはっきりと、普通の速さで、時にはゆっくりめに話す。
- ⑤大事なことは書いて示したり、視覚情報で伝えたりする。

①から⑤までのポイントは、全ての子どもに「必要な配慮」です。伝える(一方的に内容を伝達する)努力よりも、伝わる(子どもが内容を理解する＝通じ合う)努力をしましょう。

